

栽培管理のポイント



草勢管理

やや強めの草勢管理で収量性アップを目指す。

- 定植は基本的に第1花がく割れ苗で行う。
- 活着後は必ず低段花房のホルモン処理を行い、果実負担をかけることで草勢のバランスをとる。
- 3段花房開花ごろに草勢を見ながら定期的な追肥をスタートする。
- 充実した花芽形成のため、カリウム・亜リン酸や微量元素(ホウ素・カルシウムなど)の葉面散布を実施する。
- 節間が詰まる品種なので、特に日射量の少ない厳寒期は果実肥大、着色を促すために必要に応じて摘葉・玉出しを行う。
- 初春(2~3月ごろ)は日射量が増えるので、急な温度上昇防止に努める。また、灌水・追肥が遅れ圃場が乾燥しないように注意する。
- 3月ごろからの日射量・温度上昇にあわせ、葉枚数を徐々に増やす管理を心がける。



短節間の草姿

栽培管理のポイント



良好な着果性と高い収量性を発揮するためにも草勢の維持が重要なポイント！

水分管理

やや多めの灌水管理で果実肥大促進！

- 草勢は中程度でスタミナはあるが、着果性良好で果実の肥大も良好なので早めの灌水管理を心がける。
- 灌水は少量多回数で定期的実施する。
- 草勢が旺盛になりすぎても極端に灌水は控え、定期的に少量灌水を実施して圃場の土壌水分を保つように心がける。
- スジ腐れ果の発生は少ないので極端に灌水を控える管理は避ける。
- 極端に灌水を控え草勢を抑えようとして乾燥状態になると果実の尻部がへこむ等、障害果の発生を助長したり果実の肥大が抑制されたりする。
- また、低温・低日照で灌水が遅れても果実の尻部がへこむ場合があるので土壌水分の安定を心がける。



果実形状



尻部のへこみ